

地域包括支援センターの統合計画浮上、慎重審議を！

厚生常任委員会所管事務調査で市が計画づくりについて説明

厚生常任委員会の所管事務調査が16日、行われました。このなかで、福祉避難所、上越地域医療センター病院、第7期介護保険事業計画・第8期高齢者福祉計画づくり、地域包括支援センター再配置などについて説明があり、質疑が行われました。

このうち、上越地域センター病院については平成12年に国から譲渡をうけ、上越医師会が市の指定管理者として運営しています。病院の経営改革プランでは、現行制度について「比較的自主的な運営が可能であり、民間事業者の経営ノウハウを幅広く活用できる形態」としつつ、今後、経営形態を

どうしていくか具体的に検討するとしています。これに関連して、日本共産党議員団の平良木議員が、「具体的に何を考えておられるのか。安易に民間経営にするのがないように」と訴えました。担当者は、「プランに基づいて今後検討していく」とのべ、それ以上踏み込んだ答弁はありませんでした。今後の動きを注視していく必要があります。

いま一つ、注目したのは地域包括支援センターの再配置です。同センターは、高齢者が安心して暮らせるようにと、社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師などが力を合わせて様々な活動を行っています。いまや高齢者の生活支援の拠点となっています。

市内にはいま、一型6か所、二型4か所、三型3か所、四型6か所、合計で19か所あり、38人が働いています。市では、来年からは、地域の高齢者人口を考慮してエリア設定を行い、拠点施設として一型の地域包括支援センターとサテライト（なしの地域も）を置くという形にしたいとしています。（写真は吉川のセンター）



これについて委員からは、「全体的に見ると職員数は若干増え、ある意味で強化されるということになるかもしれないが、旧東頸城

地域を例にとつてみてもらうように、非常に大きな面積をカバーしなければならなくなる。人口



【サギゴケ】ハエドクソウ科の多年草。漢字で「鷺苔」と書きます。花は白。紫色のものが普通で、白色はめずらしいのかも。ちょっぴり湿り気のある農道の端っこに咲いていました。吉川区小苗代地内にて撮影。

だけでなく、面積もフアクターに入れるべきではないか」「金谷区と三郷区のように隣接しない設定でも問題ないか」などの質問が出ました。八木健康福祉部長は、「人口に注目したのは事実だが、（一型とサテライトの）職員が必ずしも顔を合わせなくてもいいという意見もいただいている」などと答えました。これも今後の動きに注目です。

6月議会を前に

市政報告会開催

6月議会が1日から始まりです。下表の通り、15日までの日程となっています。

今議会で提出が予想されていた国宝の太刀、「山鳥毛」の購入契約に関する議案は出てきませんでした。会期中中での提出についても微妙な情勢です。

日本共産党議員団が23日に開催した市政報告会では、「山鳥毛購入

6月議会審議日程（会議開始時間はいずれも10時）

	会議	場所	備考
6月 1日 (木)	本会議	議場	議案提案
6月 2日 (金)	文教経済委員会	第1委員会室	上野議員担当
6月 5日 (月)	厚生委員会	第1委員会室	平良木議員担当
6月 6日 (火)	建設企業委員会	第1委員会室	橋本議員担当
6月 7日 (水)	総務委員会	第1委員会室	橋爪担当
6月 8日 (木)	一般質問	議場	
6月 9日 (金)	一般質問	議場	
6月 12日 (月)	一般質問	議場	
6月 13日 (火)	一般質問	議場	
6月 15日 (木)	本会議	議場	議案採決など

はしづめ法一の
活動レポート

No.1808 2017.5.28

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第四五六回 一生懸命だから

まだ五月だというのに暑い日が続いています。田んぼや畑の水のことが心配になりますが、体育祭を企画したところでは、どこでも天気が良く助かったのではないのでしょうか。

先日は県立吉川高等特別支援学校からお誘いがあり、二年ぶりに同校の体育祭に参加してきました。まだ歴史が浅い同校にとって体育祭は六回目です。でも、学校関係者だけでなく、地域みんなで盛り上げるイベントとして定着しましたね。

私はこの日、八時四〇分過ぎに会場となった同校のグラウンドに到着しました。青空が広がっていて、澄み渡っています。周りの木々も新緑が輝いています。まさに体育祭日和でした。

グラウンドに降りる場所に置いてあったプログラムを手に取り、あたりを見渡すと、すでにグラウンドの土手の上やテント裏にある杉の木の下などにPTAの人たちや地元元之町の人たちがいました。みなさん、明るい表情をされていて、体育祭を楽しみにしているんだなと思いました。

テント内に座らせてもらった私も、同校の小山後援会長さんや吉川小学校長の池田先生などと話をしながら、ワクワクした気分です。体育祭の開催を待ちました。というのも、これまでの体育祭では必ずと言ってよいほど心揺さぶられる出来事がいくつもあったからです。

入場行進。始まったのは八時五五分でした。四八人の生徒が白軍と赤軍に分かれてグラウンドを一周しました。少し緊張している生徒、落ち着いて行進している生徒など表情は様々でしたが、全体として足が高く上がっていて力強く、素敵な行進だと感じました。特に、白軍の応援団長を務めたIさんの手足の動きがきびきびして、

見ている方も身が引き締まりました。行進でのいいリズムは競技にもつながっていきます。

私が最も注目したのは、「THE仕事人」という名の競技です。この競技は生徒たちが作業実習で取り組んでいる物流や清掃、接客などを種目の中に盛り込んだものです。ただ、普段と違うのは「走る」という要素が加わったことでした。そのため、清掃用具を使ってサッカーボールを転がすところでも、お盆に水の入ったペットボトルを載せ、それを立てて走るところでも「思うようにはいかない場面」がたびたび出ました。

ボールがとんでもないところに行ってしまったら、お盆に載ったペットボトルをこしても起こしてもすぐ倒れてしまったり……。当然、選手たちは焦り、あわてます。そんなとき、応援の人たちから「大丈夫！大丈夫！」という声飛びました。

もうひとつ、ボール運びリレーにも注目しました。この競技は、ふたりの選手が二本の棒を操作してボールを挟み、走るレースです。大きいボールよりも小さいボールを運ぶのがむずかしく、ボールを落とすしてしまうことがたびたびでした。このときも「大丈夫！大丈夫！」という声選手たちにかかりました。やっとゴールインしたときの選手たちのホッとした様子、印象に残りました。

選手も応援の人も一体になって頑張る。こうした様子を目の前で見てみると、時間が経つのを忘れず。セミの鳴き声を聞きながら、私はPTA会長さんの開会式での挨拶を思い出しました。「人の心をつかむということは一生命と一生命のこと。一生命と一生命、どうしても応援したくなる」。今回も素敵な運動会でした。

町屋の良さが残っていて、機能性もある建物に改修 日本共産党議員団が大町の町屋シェアハウス視察

日本共産党議員団は23日、大町3丁目にできた町屋シェアハウスを視察してきました。

このシェアハウスは大正元年に建

築された町屋を改修したもので、木造2階建。延床面積は194㎡あります。土間や吹き抜けがあつて、町屋の雰囲気が残っている建物です。

市ではこのシェアハウスを大学生（当面、女子学生のみを対象）から活用してもらい、地域と交流することを通じて地域の活性化と町屋の不動産市場における流通促進を図りたいとしています。

建物の中に入ると、茶箆筒、箱の階段、たたき土間、そして昔のまんまの柱がありました。柱には「火の用心」のミニポスターが貼ってあります。寝泊まりする部屋は5室。共同で使うキッチンやトイレは最新のものとなっていて、落ち着いた雰囲気と機能性がマッチしています。町屋の良さを生かしつつ、快適な生活ができる建物になったな、と感じました。



市の説明によると、この町屋シェアハウスは条例制定後、入居者の募集をスタートさせ、9月から入居してもらう計画とのことです。

空き家の家財道具搬出処分 分で補助スタート

市では市内の空き家の有効活用と、市外からの移住・定住者などUIターンを加速させるため、空き家の家財道具等の搬出及び処分にかかる費用の一部を今年度から助成します。家財道具等の搬出及び処分等に係る費用（5万円以上）の2分の1を補助（上限20万円）するということです。詳しいことは市役所建築住宅課にお問い合わせください。

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	5月17日(水)	5月24日(水)
上越南消防署	0.040	0.043
上越北消防署	0.050	0.053
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.047	0.047
頸南消防署	0.040	0.050
東頸消防署	0.050	0.060
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.057	0.050